

平成16・17年度 カワウ生息調査

下北野鳥の会 阿 部 誠 一

平成16年度・平成17年度 カワウ生息調査

下北野鳥の会 阿 部 誠 一

はじめに

カワウ (*Phalacrocrax carbo hanedae*) は、ペリカン目ウ科ウ属に属し、ヨーロッパ、アジア、オセアニア、アフリカの各地と北アメリカ北東部に分布していて、海岸部から内陸の河川・湖沼など水辺に生息している。全長は約82cmで、体は黒くて光沢があり、背中中は褐色味を帯びる。嘴の根元から目の周囲にかけて黄色い皮膚が露出し、その回りは白い。おもに、河川・湖沼や内湾などに生息し、巧みに潜水して主食の魚を捕える。樹上に枯れ枝などで巣を作り、集団で繁殖する。

かつてカワウは、日本各地で繁殖していたと考えられている。ところが、乱獲や大規模な開発等による生息環境の悪化が原因と思われるが、1970年（昭和45年）ごろには、全国で約3,000羽に激減してしまい、繁殖地も数箇所だけとなり、日本産としての絶滅の危機を迎えたことがあった。ところが、その後徐々に回復をはじめて現在ではほぼ全国で見られるようになった。その数は6万～7万羽が生息しているといわれている。これにともない繁殖地も増加し、海岸部から内陸部への進出が見られるようになった。

青森県でのカワウは、南津軽郡の猿賀神社の繁殖コロニーが古くから知られており、1935年（昭和10年）には国の天然記念物に指定された。その後、1970年（昭和45年）には、コロニーは消滅している。下北半島では、古くは恐山菩提寺にまつわる伝説に現れ、また、宇曽利山湖には相当古くから生息していたといわれている。1960年（昭和35年）ごろの観察でも、繁殖期に宇曽利山湖で数十羽の群れが観察されている。下北半島で初めてコロニーが確認されたのは、1977年（昭和52年）むつ市大畑（旧：大畑町）の津軽海峡に面した通称「赤岩」である。約50巣のコロニーであったが、1979年（昭和54年）を最後にコロニーは消滅した。ところが、その年に上北郡六ヶ所村の市柳沼で約30巣が確認された。また、翌年の1980年（昭和55年）には、むつ市の山辺沢沼でも33巣の新しいコロニーが確認された。その後、1993年（平成5年）には、山辺沢沼から南へ約1 kmに位置するカッタイ池で新たに44巣が確認されている。なお、六ヶ所村市柳沼のコロニーは1983年（昭和58年）ごろを最後にコロニーは消滅していたが、2000年（平成12年）に18巣62羽を確認している。以後、観察する機会が無く現在は不明であるが、同沼の漁業者の話によると繁殖は継続されているようである。

今回、平成16年・17年において、むつ市山辺沢沼とカッタイ池に生息するカワウの状況を調査することができたので次のとおり報告する。

調査方法

- 繁殖、生息の状況の調査は、山辺沢沼とカッタイ池を月に一度観察した。
- 繁殖状況は、3月から8月までの期間として、営巣数とヒナの状態などを観察した。
- 生息状況は、非繁殖期の状況と生息数を調べた。生息数は、ヒナの巣立ちが終わる7月から、次の繁殖が始まる翌年の2月までの期間とした。その数は、調査開始時にねぐら（コロニー）内にいた数と、その後ねぐらへ戻って来た数とを合わせたものとした。

- 観察には、10倍の双眼鏡と20倍の望遠鏡を使用した。

調査結果

山 辺 沢 沼	カ ッ タ イ 池
<p>H16/1/10</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数244羽。 • 観察中の15：30～16：30の間に147羽が集中して飛来した。 	<p>H16/1/10</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数0羽。 • 池の上空に飛来することはなかった。
<p>H16/2/15</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数20羽。減少した。 • 集中して飛来することはなかった。 	<p>H16/2/14</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0羽。 • 池の上空に飛来することはなかった。
<p>H16/3/20</p> <ul style="list-style-type: none"> • さかんに巣作り中。新しく作るもの、前年の巣を利用するものなど。 • 全体の半分位は巣に入っているが、巣の上で求愛行動をしていて、抱卵の姿勢ではない。卵があるかは不明であった。 • 巣材をくわえてよく飛び回っていた。 	<p>H16/3/20</p> <ul style="list-style-type: none"> • 山辺沢沼と同様に、巣作りの最中であった。 • 半分位は巣に入って、求愛行動がよく見られた。卵があるかは不明であった。 • 巣材をくわえてよく飛び回っていた。
<p>H16/4/24</p> <ul style="list-style-type: none"> • 営巣数：185巣。 • 全ての巣に親が入っていて、抱卵姿勢をしていた。ヒナの声聞いたが姿は確認できなかった。足元を気にして嘴を差し込んだりしていたので、小さなヒナがいた可能性がある。 	<p>H16/4/25</p> <ul style="list-style-type: none"> • 営巣数：469巣。 • 全ての巣に親が入っていて、抱卵姿勢をしていた。ヒナの声が数箇所から聞こえて来た。その内の一巣で孵化後数日と思われる小さなヒナ2羽を確認した。
<p>H16/5/29</p> <ul style="list-style-type: none"> • ヒナの声がよく響いていた。ほとんどの巣にヒナの姿があった。全体的に親の半分位のヒナが多く、小さいものもあった。 • すでに巣立ちしているものがあり、岸の倒木の上で休息したり、沼で水浴びして羽づくろいをしていた。 • 抱卵姿勢の巣もあった。足元を気にする行動や体を浮かすようにするなど小さいヒナがいる様子であった。 • 小さなヒナから、巣立ち幼鳥まであり、繁殖の段階に差があった。 	<p>H16/5/29</p> <ul style="list-style-type: none"> • 山辺沢沼と同様に、ヒナの声がよく響いていた。ほとんどの巣にヒナの姿があった。全体的に親の半分位のヒナが多く、小さいものもあった。 • 巣立ちしていたものがあった。木の枝に止って親に餌をねだる行動をしていた。 • 抱卵姿勢の巣もあり、卵の可能性もあった。繁殖の段階には山辺沢沼と同様に差があった。
<p>H16/6/20</p> <ul style="list-style-type: none"> • 餌を求めて鳴く声がよく響いていた。 • ほとんどの巣では巣立ちが近い状態であった。すでに巣たちを終えている幼鳥も多くあった。巣立ち前なのは、巣の縁で羽ばたいていた。 • 抱卵姿勢が3巣あったが、卵かヒナかは不明であった。 	<p>H16/6/20</p> <ul style="list-style-type: none"> • 山辺沢沼と同様に、ほとんどの巣では巣立ちが近い状態であった。すでに巣たちを終えている幼鳥も多くあった。 • 巣立ち幼鳥は岸辺の倒木の上で休息していた。 • 親の半分位のヒナがいたのが2巣。抱卵姿勢が7巣あった。卵かヒナかは不明であった。

山 辺 沢 沼	カ ッ タ イ 池
<p>H16/7/24</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数：398羽。 • 巣立ち間近い巣が2巣、少し間がある巣が2巣あった。他はすべて巣立ちを終えていた。 • 巣立ち幼鳥は岸辺の倒木で休息したり、沼で水浴びして羽づくろいしていた。 	<p>H16/7/4</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数：975羽。 • 親と同大であるが巣立ちまで間がある巣が3巣あった。他はすべて巣立ちを終えていた。 • 巣立ち幼鳥は岸辺の倒木で休息したり、沼で水浴びして羽づくろいしていた。 • 木に止っていた幼鳥が親に餌を求めたが、親は与えることはなかった。
<p>H16/8/14</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数：306羽。 • 繁殖は終了していた。 • 巣立ち幼鳥が餌を求めて鳴いていたが、そばにいた親は与えなかった。 	<p>H16/8/7</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数84羽。 • 巣立ちにまだ少し間があるものが1巣あった。他は、すべて繁殖は終了していた。 • 池にいた巣立ち幼鳥が、そばにいた親に餌を求めて行くが、親は与えることなく逃げた。
<p>H16/9/18</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数361羽。 • 14：40ねぐら（コロニー）内には11羽がいた。その後、1～数羽または20～30羽の群れで次々と戻って来た。特に、16：00～17：00の1時間に173羽が集中して飛来した。 	<p>H16/9/4</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数1羽。 • 16：00ねぐら内には13羽がいた。その後、16：10に11羽が飛び出し山辺沢沼の方角へ向かった。17：00に2羽が飛来したが、17：45には3羽が飛び去り、山辺沢沼の方角へ向かった。調査終了時の18：00は1羽であった。
<p>H16/10/9</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数272羽。 • 15：10ねぐら内には48羽がいた。その後、次々と戻って来て調査終了時の17：20には272羽となった。16：00前後に飛来が集中した。 	<p>H16/10/2</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数0羽。 • 15：30ねぐら内は0羽。その後、飛来することもなく17：15まで0羽のままであった。16：23に1羽が上空を3度巡回したが、すぐに山辺沢沼の方向へ行った。
<p>H16/11/6</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数309羽。 • 14：25ねぐら内には4羽いた。その後、次々と戻って来た。特に、15：00～16：00の1時間で228羽が集中して飛来した。 	<p>H16/11/7</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数0羽。 • 15：40ねぐら内には1羽いたが、16：00には確認できず不明となった。その後、1羽も飛来することなく、調査は終了した。
<p>H16/12/23</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数112羽。 • 沼はほとんど結氷していた。 • 15：00ねぐら内は0羽であった。 • 16：00～16：30に92羽が集中して戻って来た。 	<p>H16/12/11</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数0羽。 • 池は結氷していない。 • 15：30ねぐら内は0羽であった。 • 1羽も飛来しなかった。また、上空の巡回もなかった。
<p>H17/1/15</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数109羽。 • 沼はほとんど結氷していた。 • 15：40ねぐら内は0羽であった。16：30過ぎてから戻り始めて、17：00までの30分間に93羽が集中して飛来した。 	<p>H17/1/8</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数0羽。 • 池は全面結氷していた。 • 15：40ねぐら内は0羽であった。その後、16：50まで1羽も飛来しなかった。また、上空の巡回もなかった。

山 辺 沢 沼	カ ッ タ イ 池
<p>H17/2/11</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数85羽。 • 沼はほとんど結氷していた。 • 16：10ねぐら内は0羽であった。16：30過ぎてから戻り始めて、17：30までに85羽が飛来した。 	<p>H17/2/26</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数0羽。 • 池は全面結氷していた。 • 16：05ねぐら内は0羽であった。その後、17：35まで1羽も飛来しなかった。17：22に5羽が上空を低く通過したが、旋回することなく山辺沢沼の方向に行った。
<p>H17/3/20</p> <ul style="list-style-type: none"> • 沼の半分以上が結氷していた。 • さかんに巣作り中である。沼に潜って小枝をくわえて来たり、木に止って枝を折ったりして巣材にしていた。 • 巣の上や巣の側でよく鳴きながら求愛行動をしていた。 	<p>H17/3/20</p> <ul style="list-style-type: none"> • 池は全面結氷していた。 • さかんに巣作り中である。 • 巣の上や巣の側でよく鳴きながら求愛行動をしていた。 • 巣に入っているのが2巣あった。卵があるかは不明であった。
<p>H17/4/16</p> <ul style="list-style-type: none"> • 営巣数：153巣。 • ほとんどの巣に入っていて抱卵の姿勢をしている。足を元を気にしたり、嘴を腹の下に入れたりしていた。卵が小さなヒナの可能性があるが確認できなかった。 	<p>H17/4/16</p> <ul style="list-style-type: none"> • 営巣数：327巣。 • ほとんどの巣では抱卵の姿勢をしている。山辺沢沼同様に卵が小さなヒナの確認はできなかった。 • 池に潜って小枝をくわえて来て、巣に戻って相手に渡した。その小枝は巣の縁に差し込まれ補修に使われた。
<p>H17/5/21</p> <ul style="list-style-type: none"> • 営巣数：158巣。 • 沼中央部の南側で、4月に無かった所に新しく5巣があった。 • ほとんどの巣で抱卵姿勢だが、体を少し浮かせたような浅い座りをしていた。確認したヒナのほとんどは小さいが、親の2/3位のヒナがいるのが2巣あった。 	<p>H17/5/21</p> <ul style="list-style-type: none"> • ほとんどの巣で抱卵姿勢だが、体を少し浮かせたような浅い座りをしていた。確認したヒナのほとんどは小さかった。他に、親の2/3位のヒナがいる巣が3巣、親と同じ大きさのヒナがいたのが3巣あった。
<p>H17/6/11</p> <ul style="list-style-type: none"> • コロニー全体に餌を求めるヒナの声が響いている。 • 各巣には小さなヒナから親と同じ大きさまであった。抱卵姿勢があったが卵かヒナかは不明であった。 • 巣立ち幼鳥が岸辺の倒木の上で休んでいた。 	<p>H17/6/11</p> <ul style="list-style-type: none"> • コロニー全体に餌を求めるヒナの声が響いている。 • 各巣には小さなヒナから巣立ちが近いものまであった。抱卵姿勢があったが卵かヒナかは不明であった。 • 巣立ち幼鳥が岸辺の倒木の上で休んでいた。
<p>H17/7/30</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数：438羽。 • ほとんどの巣では巣立ちを終えている。残っているのは、巣立ち近い2巣、少し間がある3巣、親と同じ大きさ9巣、親の2/3が2巣であった。これらのヒナが餌を求めてよく鳴いていた。 	<p>H17/7/23</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数：442羽。 • 生息数が例年の半分以下になった。 • ほとんどの巣では巣立ちを終えている。残っているのは、巣立ち近い5巣、少し間がある6巣、親と同じ大きさ16巣、親の2/3が8巣であった。これらのヒナが餌を求めてよく鳴いていた。
<p>H17/8/27</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数：334羽。 • 巣立ち間近いのが1巣1羽あった。他はすべて巣立ちを終えていた。 	<p>H17/8/14</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生息数201羽。 • 巣立ち間近いのが4巣、まだ少し間があるのが2巣あった。他はすべて巣立ちを終えていた。

山 辺 沢 沼	カ ッ タ イ 池
<ul style="list-style-type: none"> ・巣立ち幼鳥は岸辺の倒木で休んだり、沼で水浴びをしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巣立ち幼鳥が親にしきりに餌を求めるが与えなかった。
H17/9/10 <ul style="list-style-type: none"> ・生息数428羽。 ・繁殖は終了していた。 ・木に止っていた巣立ち幼鳥は親が帰って来ると、餌を求めて親を追うが、親は与えることはなかった。 	H17/9/3 <ul style="list-style-type: none"> ・生息数109羽。 ・巣立ちにまだ間があるのが1巣1羽あった。 ・幼鳥が帰ってきた親に餌を求めて追うと、ほとんどの場合は与えないが、今回はすぐに与えた。
H17/10/16 <ul style="list-style-type: none"> ・生息数488羽。 ・14：20ねぐら内には32羽がいた。その後、次々と戻って来た。16：00から17：00の一時間に半数に当たる242羽が飛来した。 	H17/10/22 <ul style="list-style-type: none"> ・生息数1羽。 ・15：55ねぐら内には2羽がいた。その後16：10に1羽が戻って来た。16：23と16：31に1羽ずつが飛び出し山辺沢沼方面へ向かった。調査終了時は1羽となった。
H17/11/5 <ul style="list-style-type: none"> ・生息数462羽。 ・14：40ねぐら内には6羽がいた。その後、次々と戻って来た。特に、15：30から16：00までの30分間で293羽が集中して飛来した。 	H17/11/19 <ul style="list-style-type: none"> ・生息数0羽。 ・15：15ねぐら内は0羽であった。その後、1羽も飛来することなく、暗くなったため調査は終了した。
H17/12/23 <ul style="list-style-type: none"> ・生息数73羽。 ・14：50ねぐら内は0羽であった。15：40から戻り始めて16：30頃に飛来が集中した。 	H17/12/24 <ul style="list-style-type: none"> ・生息数0羽。 ・15：30ねぐら内は0羽であった。その後、1羽も飛来することなく、暗くなったため調査は終了した。

営 巢 数

	平成16年	平成17年
山 辺 沢 沼	185巢	158巢
カ ッ タ イ 池	469巢	328巢

生息数

(単位：羽)

年月	山辺沢沼	カッタイ池	合計
H16年1月	224	0	224
2月	20	0	20
7月	398	975	1,373
8月	306	84	390
9月	361	1	362
10月	272	0	272
11月	309	0	309
12月	112	0	112
H17年1月	109	0	109
2月	85	0	85
7月	438	442	880
8月	334	201	535
9月	428	109	537
10月	488	1	489
11月	462	0	462
12月	73	0	73

まとめ

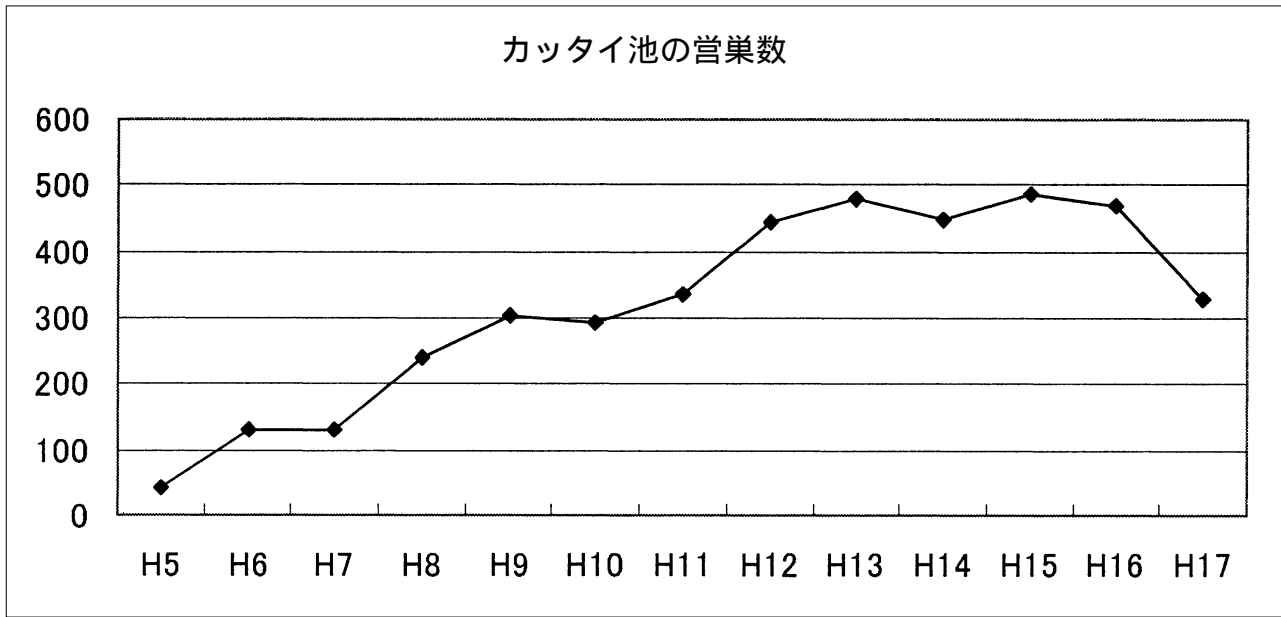
H16・17年ともに3月には繁殖が始まっていて、小枝を運んでさかんに巣作りをしていた。4月は抱卵、5月にはほとんどの巣にヒナがいるという、これまでどおりの結果であった。しかし、営巣数に変化があった。次の表は過去5年間の営巣数である。山辺沢沼は、過去5年間の平均が140巣に対して158巣でやや増加したものの、前年のH16年が185巣なのでむしろ減少している。全体的には特に問題は無いと思われる。カッ

表1 営巣数

(単位：巣)

	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17
山辺沢沼	114	138	113	152	185	158
カッタイ池	446	481	447	486	469	328
合計	560	619	560	638	654	486

タイ池は、平均が460巣に対し328巣というのは130巣以上減少していることになる。カッタイ池が300巣台になったのは、H5年に確認されてから増加してきたH9年である。次のグラフはカッタイ池の営巣数である。コロニーは順調に大きくなってきたことがわかる。



H12年からは、400巣台で推移して安定した状態だったので、今回の減少が気になるところである。次に、繁殖の終了時期についてであるが、例年は8月には巣立ちを終えていて繁殖終了となる。H16年は両コロニーともに8月で終了しているので例年どおりであったが、H17年のカッタイ池は、8月に6巣、9月にも1巣と、繁殖の終了が遅れた。

次に生息状況については、山辺沢沼では繁殖コロニーを繁殖が終わったあともねぐらに使用していて、周年生息していて例年どおりの結果となった。また、カッタイ池も繁殖終了後は急激に生息数が減少して、非繁殖期は生息しないという例年どおりの結果となった。生息数については、これまで7月は、親鳥に巣立ちした幼鳥が加わって、一年のうちで最も羽数が多くなる時であった。例年最多羽数となる7月の記録を見ると、山辺沢沼はH16年398羽・H17年438羽、カッタイ池はH16年975羽・H17年442羽であった。山辺沢沼はほぼ同じ結果となったが、カッタイ池ではH17年の生息数が半数以下に減少しているという結果になった。次の表は、過去5年間の生息数(7月)をまとめたものである。山辺沢沼は5年の平均が395羽であり、H17年の438羽はほぼ平均羽数であり、安定した繁殖が続けられていることがわかる。一方、カッタイ池は、平

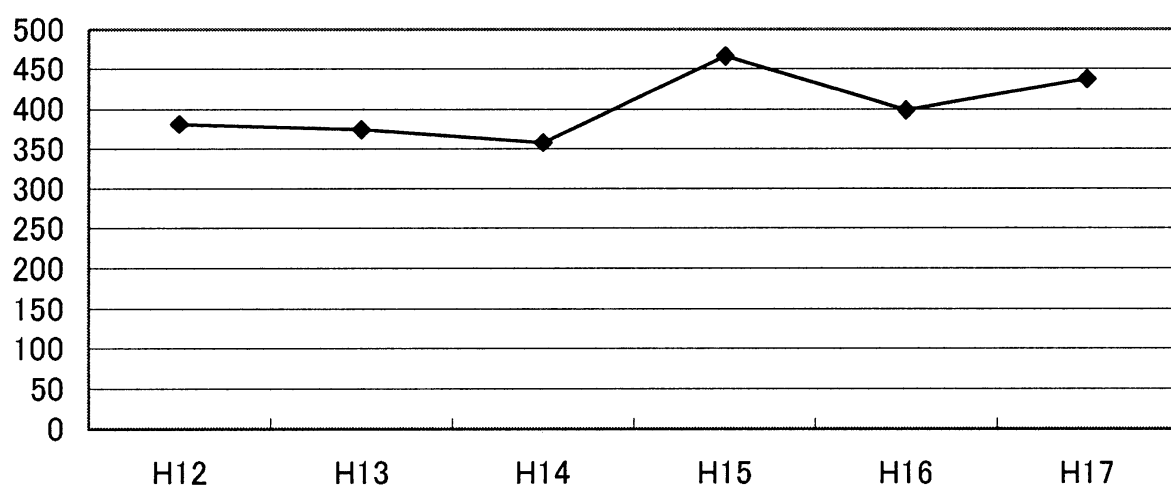
表2 生息数(7月)

(単位:羽)

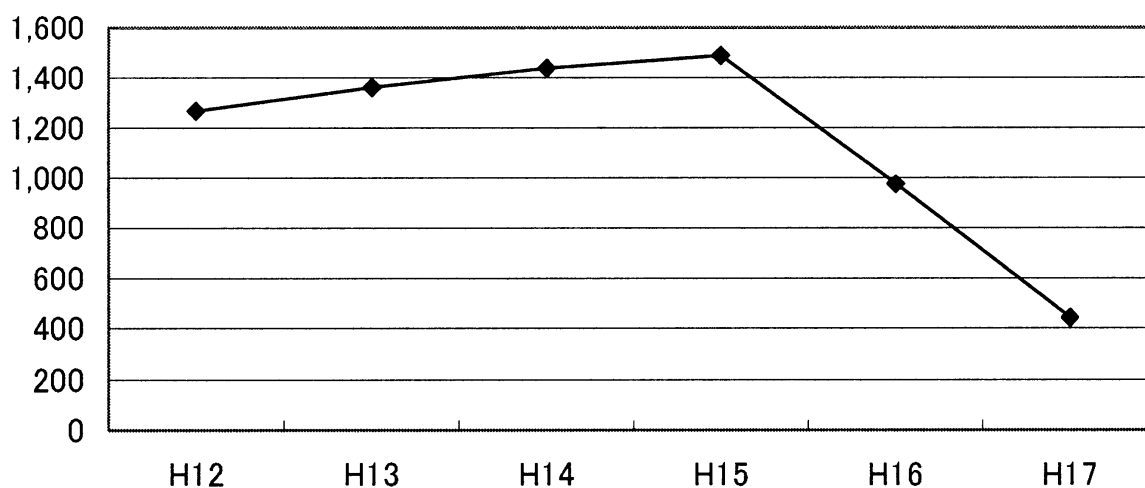
	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17
山 辺 沢 沼	381	374	358	467	398	438
カッタイ池	1,266	1,361	1,439	1,487	975	442
合 計	1,647	1,735	1,797	1,954	1,373	880

均が1300羽に対しH17年では442羽と1/3に激減した。また、前年のH16年も975羽でこれまでに比べ減少している。H12年からH15年までは、約1,400羽で安定して推移していた。それが、今回大きく減少したことは、このグラフを見ればよくわかる。

山辺沢沼の生息数（7月）



カッタイ池の生息数（7月）



以上、H16年・H17年の調査結果は、山辺沢沼は例年同様の結果となり、生息・繁殖が安定した状態にあることがわかった。一方、カッタイ池は、「営巣数の減少・繁殖終了の遅れ・生息数の激減」となり、これまでに無い結果となった。原因については現在のところ不明であり、今後の調査を待たなければならない。